

令和5年11月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	5 議席 番号	6 氏名	中 野 健太郎 議員	1 / 2
発言項目		要 旨		答弁者
1	ナショナルサイクル ルート設定に向けた富 士宮市の取組と自転車 文化の醸成について	<p>本年8月末、静岡・山梨両県が中心となった「ぐるり富士山サイクルツーリズム推進協議会」が設立された。国のナショナルサイクルルート(NCR)への指定を目指し、地域活性化を図るものであり、誰もが安全に迷わずサイクリングを楽しめる環境整備が進められている。</p> <p>NCRに認定されているしまなみ海道サイクリングロード、ピワイチは認定制度創設前から自治体独自の受入体制が整い、効果実績が上がっている一方、太平洋岸自転車道については著しい効果実績が上がっているとは言えない現状にある。また、世界の目はブームに乗っただけの「あやかり型」サイクルツーリズムに対しては厳しく、自治体の本気度が問われているとの指摘もある。</p> <p>自転車活用推進計画を策定した富士宮市が富士山一周サイクリングロード「フジイチ」のフロントランナーになるべく、以下伺う。</p> <p>(1) NCR指定要件のうち、受入環境について。</p> <p>① コンビニエンスストアや商店にサイクルステーション設置の協力を率先して求めるなど、民間活力を生かすべきと考えるが、いかがか。</p> <p>② 市内公共交通機関との連携の進捗状況は。</p> <p>(2) NCR指定要件のうち、官民連携について、「宮ぼた」をより発展させ、行政側からもサイクリングの楽しさを発信し、自転車文化の機運醸成を図るべきと考えるがいかがか。</p> <p>(3) 努力義務化されたヘルメットの着用率向上にもつなげるため、小学4年生または中学校入学のタイミングで購入費の補助券を配布すべきと考えるが、いかがか。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長
2	多死社会到来に対応 するおひとり様終活支 援について	<p>高齢者の終末期の延命治療の判断、入居の際の保証人、死後の葬儀、支払い、届出等は、これまでその家族が担ってきた。しかし、独居高齢者世帯の増加、生涯未婚率の上昇等により、家族頼みの対応困難なケースが増加し、今後ますます深刻化することが見込まれる。</p> <p>住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けていくためには、本人の判断能力があるうちに、いわゆる終活を始めておく必要がある。しかし、終活の必要性を理解していても「どう取り組めばいいのか分からない」、家族がいない場合は事業者に依頼することに「不安がある」という市民の声も聞く。多死社会の到来を踏まえ、特に独居者に対するエンディングサポートの必要性は高まっていると推察し、以下伺う。</p> <p>(1) 次の各件数の推移を伺う。</p> <p>① 権利擁護・成年後見制度に関する相談件数は。</p> <p>② 権利擁護に関する支援困難事例件数は。</p> <p>③ 入院・入居施設からの身元に関する問い合わせの件数は。</p> <p>(2) 従来、地域包括支援センターが取り組んできた相談窓口を「終活コンシェルジュ」として特化・独立させ、増加するニーズに対応できる人員体制を構築するべきと考えるが、いかがか。</p>		市長 副市長 教育長 関係部長

発言 順序	5	議席 番号	6	氏名	中 野 健太郎 議員	2 / 2
発 言 項 目			要 旨			答 弁 者
			(3) DX化の一環として、富士宮市公式LINEやウェブサイト で終活チャットボットを導入し、24時間365日、市民が抱える 質問や課題への回答が可能な運用ができないか。			